



九州・山口 6歳未満の子を持つ夫婦の家事・育児時間等に関する調査報告書〈概要版〉

九州・山口に住む6歳未満の子どもを持つ夫と妻に、平日・休日別の家事・育児等の取組時間、家事・育児等に対する性別役割分担意識、男女が共に家事・育児を担っていくために必要だと思うこと、男性の育児休業等の取得の意向などについてWebによる調査を実施しました。

●平日の夫の家事・育児等の時間は2時間33分、妻は8時間46分

※家事・育児等の時間＝「家事」、「介護・看護」、「育児」、「買い物」の家事関連時間の合計

- ・平日における夫の家事・育児等の時間は2時間33分、妻は8時間46分であり、妻の時間が夫より6時間以上長く、特に「家事」と「育児」の時間は、3倍以上の差があります。

平日	合計時間	家事	看護・介護	育児	買い物
夫平均	2時間33分	51分	9分	1時間10分	23分
妻平均	8時間46分	3時間09分	18分	4時間15分	1時間04分

●休日の夫の家事・育児等の時間は5時間21分、妻は9時間46分

- ・休日における夫の家事・育児等の時間は、5時間21分で、平日より3時間近く長いものの、妻の家事・育児等の時間と比較すると4時間以上の差があります。

休日	合計時間	家事	看護・介護	育児	買い物
夫平均	5時間21分	1時間17分	10分	2時間55分	59分
妻平均	9時間46分	3時間11分	21分	4時間45分	1時間29分

●1週間あたりの夫の家事・育児等の時間は23時間27分、県別では沖縄県が最も長い

- ・1週間あたりの夫の家事・育児等の時間は、九州・山口全体の平均で23時間27分です。県別にみると、最も長いのは沖縄県で、次いで、佐賀県、大分県となっています。
- ・また、1週間あたりの妻の家事・育児等の時間は、63時間22分で、県別では山口県が最も長く、次いで鹿児島県、宮崎県となっています。

●共働き夫婦は全体の3分の2、また、約7割の夫婦は、家事・育児に親の支援を受けていない

- ・夫婦の就労形態では、「共働き」の割合が66.4%、「夫のみ就労」が29.8%となっています。
- ・「親との同居・近居により、家事・育児の支援を受けている」割合は30.1%で、それ以外の69.8%は、親と同居・近居していないか、していても支援を受けていない、となっています。

●6歳未満の子を持つ夫婦の9割以上が、家事・育児等は「夫婦でするもの」

- ・家事・育児等は誰がするものだと思うかの意識について、性別、年齢、居住地すべての属性で9割以上の人々が「夫婦でするもの」と考えています。

●男女がともに家事・育児を担っていくためには、

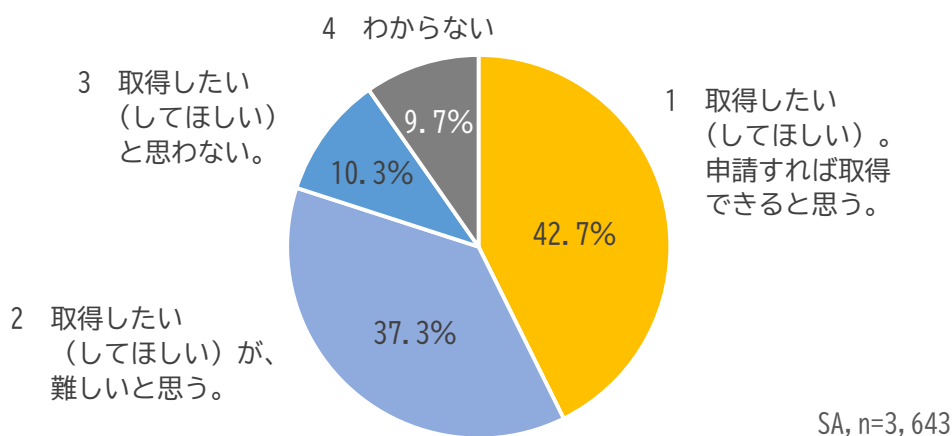
夫婦や家族間でのコミュニケーション、家事や育児の内容を男性がもっと知る、定時退勤や休暇取得のしやすい職場になる ことなどが必要

- ・男性が家事・育児をもっと担っていくために必要と思うことについて、最も多かったのは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」です。次いで「日常的に必要な“見えない家事”の存在や育児の内容を男性がもっと知ること」、「ワーク・ライフ・バランスや働き方改革が進み、定時退勤や休暇取得のしやすい職場になること」、「男性の家事・育児についての、職場の上司や周囲の理解」と続いています。

●男性の育児休業等を「取得したい（してほしい）」と考えている人は、8割

※育児休業等＝ 法に基づく育児休業制度のほか、育児目的休暇（配偶者出産休暇や会社独自の休暇制度）なども含む

- ・男性の育児休業等の取得の意向について、「取得したい（してほしい）。申請すれば利用できると思う」（42.7%）と「取得したい（してほしい）が、難しいと思う」（37.3%）を合わせた、取得意向のある人は80.0%です。男性の育児休業等を取得したい（してほしい）と考えている人の割合は、比較的高いことがうかがえます。



●希望する期間は、約2週間から3か月が多い

- ・取得希望日数は、「15日～30日」（31.2%）、次いで「31日～90日」（22.5%）が多く、約2週間から3か月の期間を希望する人が過半数となっています。

●取得したいが難しいと思う・利用しようと思わない「理由」で多いものは、

「人手不足（会社に支障）」、「職場の環境や風土」、「収入の減少」

- ・取得は難しい・利用したいと思わない理由については、「人手不足により会社に支障が出る」、「職場環境や風土により取るのが難しい」という意見が男女ともに特に多く、「収入が減ってしまう」との理由も多くみられました。